

Mizuho Bangkok Daily Market Report

Dated of 2024/05/02

Forex

	Close	CHANGE
USD/THB	37.03	-0.16
JPY/THB	0.2396	0.0038
USD/JPY	154.57	-3.23
EUR/THB	39.65	-0.01
EUR/USD	1.0712	0.0046
USD/CNH	7.234	-0.021
SGD/THB	27.19	-0.04
AUD/THB	24.14	0.07
USD/INR	83.44	0.00
USD Index	105.76	-0.47

Commodity

	Close	CHANGE
GOLD	2,311.0	8.1
WTI (Oil)	79.00	-2.93
Copper	9,895.5	-95.5

Stock

	Close	CHANGE
SET (TH)	1,367.95	0.00
NIKKEI (JP)	38,274.05	-131.61
DOW (US)	37,903.29	87.37
S&P500 (US)	5,018.39	-17.30
SHCOMP (CN)	3,104.82	0.00
DAX(GER)	17,932.17	0.00

Bond

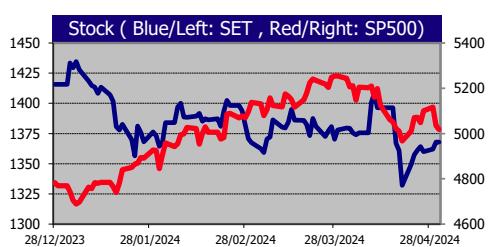
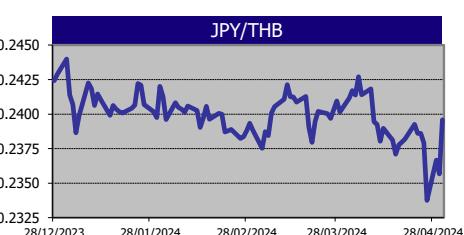
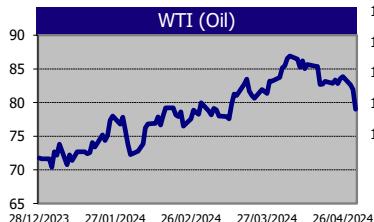
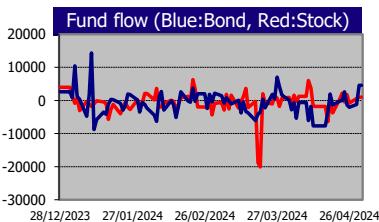
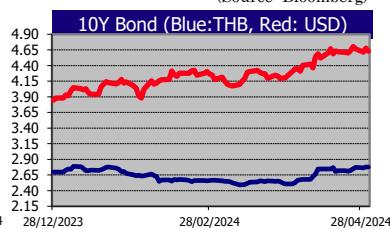
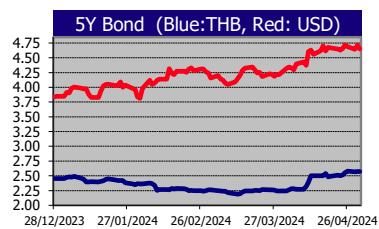
	Close	CHANGE
5Y (THB)	2.574	0.000
10Y (THB)	2.780	0.000
5Y (USD)	4.648	-0.067
10Y (USD)	4.628	-0.051

Fund Flow (Overseas Investors)

	Close	CHANGE
Stock net flow	975	0.0
Bond net flow	4,553	0.0

*compared with previous day

(Source: Bloomberg)



Yesterday's market summary

●ドルバーツ

・4月30日(火)のドルバーツは上昇。37バーツ台ちょうど付近で取引を開始すると、翌日にFOMC結果公表を控える中、37バーツ台前半での値動きが継続。海外時間に入ると、米第1四半期雇用コスト指数が市場予想対比上振れしたことや、米金利の上昇等を背景にドル買い優勢の展開となり、ドルバーツは上昇。終盤にかけては年初来高値を更新し、そのまま高値圏でクローズ。昨日のドルバーツは下落。タイを含め、多くのアジア各国が休日となる中、ドルバーツは前日の流れを引き継ぎ上昇。早々に年初来高値を再度更新する動きを見せる、昨年10月の高値付近まで上値を伸ばしたところで勢いは一服。海外時間、注目されたFOMCでは政策金利は市場予想通り据え置かれたものの、その後のパウエル議長の会見の内容がややハト派的と捉えられドルバーツは36バーツ台後半まで下落。終盤にかけて上下にやや荒い値動きが続き、結局37.03レベルでクローズを迎えた。

●ドル円その他

・4月30日(火)のドル円は前日の大幅下落からの反発からかじりじりと上昇。米労働関連指標が予想対比上振れたことも相俟って上値を伸ばし、157円台後半の水準でクローズ。昨日のドル円は下落。157円台後半で取引を開始すると、海外時間にFOMCの結果公表を控え、同水準で小幅な値動きが継続。海外時間、注目のFOMCは、追加利上げの可能性を否定する等、市場が懸念するほどタカ派なスタンスではなかったと捉えられ、157円ちょうど付近まで下落。その後、本邦当局が再度介入を実施したの見方が出る中、一時153円ちょうど付近まで急落。ただ、引けにかけては反発し、154.57レベルでクローズした。

Bangkok Dealer's Eye

日本がゴールデンウイークで東京の市場参加者が細る中、円相場の値動きが非常に荒くなっている。為替取引を行う場合はくれぐれもその時点での水準を再確認することを推奨したい。昨日の米FOMCでは予想通り政策金利の据え置きが決定され、比較的波乱のない内容だったと思われるが、その後ドル円は短時間で4円程度急落した。パウエル議長の会見は、年内の利下げに関する言及がなくなったことで市場の利下げ観測を更に後退させたものの、一部で警戒されていた追加利上げの可能性について「低い」と強調したことがより注目され、今回のFOMCは総じてハト派だったとの受け止めが多い。これを受け、FOMC後は米金利の低下とともにドル円もやや円高に反応していたが、その後の急な値動きを踏まえ、29日同様日本の通貨当局が円買い介入を実施したとの見方が浮上している。現時点で政府は介入の有無を明らかにしていないが、報道によれば、1回の介入が5兆円程度だとすると、政府が保有する外貨流動性をもとに計算される実弾は7、8発程度らしい。今朝の時点でドル円はまたその水準をじりじりと切り上げつつあり、引き続き円相場は市場と当局との攻防という様相が強まりそうだ。パウエル議長はいつ利下げに動くかはデータ次第との主張を繰り返しており、明日の米4月雇用統計とともに、15日に公表される米4月CPIは益々注目されることとなろう。(吉田)